グローカルデザイン提案書:我孫子市

佐藤　寛 *1　林　健一 *2

【概要】

我孫子市は、千葉県の北西部に位置し、東に印西市、南と西は手賀沼を隔て柏市がある。北は茨城県取手市・北相馬郡利根町と利根川を挟んで隣接している。我孫子市は、手賀沼と利根川に抱かれた水と緑の豊かな住宅都市としての性格を持ち、都心から約 40㎞、常磐線で 35 分の近距離にあることから、首都圏へ通勤する人々の住宅地としての役割を果たしている。また、柔道家の加納治五郎、白樺派の志賀直哉、武者小路実篤など多くの文化人が手賀沼のほとりに居を構え、我孫子で活動を展開し、その旧居や作品が現在も残され、同市の大切な文化遺産となっている。

令和 4（2022）年度には、「未来につなぐ心やすらぐ水辺のまち　我・孫・子」を将来都市像とする「我孫子市第四次総合計画　基本構想･前期基本計画」がスタートしたところである。

本提案書は、我孫子市の歴史・文化・自然環境など固有の地域資源の持つ潜在性と可能性を最大限に活用し、グローバルなつながりを推進することにより、持続可能な地域活性化に向けた提案を行うものである。

目次

1．我孫子市のグローカル・プロファイリング

（1）基本情報

（2）我孫子市の地域資源

（3）検討の視点

（4）我孫子市の人口動態

（5）我孫子市と周辺地域とのつながり

（6）国勢調査等から見た我孫子市のグローカルなつながり

2．我孫子市のグローカルデザイン

（1）提案の視点

（2）我孫子市の地域経済循環の概要

（3）我孫子市の「生産（付加価値額）」面の分析

（4）我孫子市の「分配（所得）」面の分析

（5）我孫子市の「支出」面の分析

（6）我孫子市の製造業

（7）我孫子市の小売・卸売業

（8）付加価値額から見た我孫子市の主要産業

（9）「稼ぐ力分析」から見た我孫子市の特徴

（10）グローカルデザインとその実現に向けた対策：まとめ

①我孫子市の地域産業がもつ「稼ぐ力」の向上

②我孫子市の地域産業を担う「生産年齢人口」の維持・確保

*1　中央学院大学現代教養学部長・教授

*2　中央学院大学現代教養学部・教授

1．我孫子市のグローカル・プロファイリング

（1）基本情報

我孫子市は、千葉県の北西部に位置し、東に印西市、南と西は手賀沼を隔て柏市があり、北は利根川をはさんで、茨城県取手市・北相馬郡利根町と隣接し、手賀沼と利根川に挟まれた、細長い馬の背状の地域となっている。南北延長は最長部で約４㎞、東西延長は約 14㎞あり、面積はおよそ 43.15㎢となっている[1]。

昭和 30（1955）年４月に我孫子町、布佐町、湖北村が合併して我孫子町となり、昭和 45（1971）年７月に市制を施行した。都心から約 40㎞、常磐線で 35 分の近距離にあり、首都圏へ通勤する人々の住宅地としての役割を果たしており、令和４（2022）年３月１日現在の人口は 131,258 人である[2]。

図１　我孫子市の位置

出典）https://www.travel-zentech.jp/japan/Chiba/Abiko_City.htm

（2）我孫子市の地域資源

我孫子市の地域資源の一例として、文化財に注目する。我孫子市内には、令和 4（2022）年 8 月 25 日現在、国指定文化財はない。国登録有形文化財としては、平成 20（2008）年に旧井上家住宅が文化財登録原簿に登録されたが、市指定文化財となったため平成 30（2018）年に登録原簿より抹消された。また、県指定文化財は 5 件（表１）、市指定文化財は 17 件ある。

後者の市指定文化財は、「我孫子市文化財保護に関する条例」第４条に基づき市の区域内にある文化財のうち重要なものについて我孫子

1　国土交通省国土地理院「令和３年度全国都道府県市町村別面積調（4 月 1 日現在）」p.26

2　我孫子市 web ページ「令和３年度我孫子市住民基本台帳人口・世帯数」。
https://www.city.abiko.chiba.jp/shisei/toukeijoho/toukei/jinoku_setai/r3.html

市指定文化財として指定し、保護しているものである。

また、現時点で把握している文化財指定されていない「我孫子遺産」については、表２のとおり、古文書については、現在 44 件を保有していることが確認されている。今後も申し出によっては増える可能性がある他、手賀沼や利根川などの自然物、埋蔵文化財包蔵地として登録されている遺跡等が存在している。

表１　我孫子市の県指定文化財

番号	指定・登録	類別	文化財名	員数	現所在地・伝承地	所有者・伝承者(管理責任者)	指定・登録日
1	県指定	有形文化財（考古資料）	金塚古墳出土遺物	21点	我孫子市布佐平和台5-1-2 我孫子市文化財整理室	我孫子市	平成24年3月16日
2	県指定	有形民俗文化財	正泉寺の血盆経信仰資料	一括	我孫子市湖北台9-12-36	正泉寺	平成10年3月20日
3	県指定	記念物（史跡）	水神山古墳		我孫子市高野山439他	香取神社	平成4年2月28日
4	県指定	記念物（史跡）	相馬郡衙正倉跡		我孫子市日秀字西60-6他	千葉県	平成7年3月14日
5	県指定	記念物（天然記念物）	東源寺の榧ノ木		我孫子市柴崎170	東源寺	昭和10年8月23日

出典）千葉県ホームページ「市町村別の国・県指定および国登録文化財」（我孫子市）
https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/bunkazai/shitei/shichouson/abiko.html

表２　我孫子市指定等文化財件数一覧表

種類		国		千葉県		我孫子市	
		指定選定	登録	指定	登録	指定	登録
有形文化財	建造物	0	0	0	0	4	0
	絵画	0	0	0	0	0	0
	彫刻	0	0	0	0	2	0
	工芸品	0	0	0	0	0	0
	書跡・典籍	0	0	0	0	0	0
	古文書	0	0	0	0	0	0
	考古資料	0	0	1	0	3	0
	歴史資料	0	0	0	0	1	0
無形文化財		0	0	0	0	0	0
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	0	1	0	2	0
	無形の民俗文化財	0	0	0	0	2	0
記念物	遺跡	0	0	2	0	1	0
	名勝地	0	0	0	0	1	0
	動物、植物、地質鉱物	0	0	1	0	1	0
文化的景観		0	0	0	0	0	0
伝統的建造物群		0	0	0	0	0	0
文化財の保存技術		0	0	0	0	0	0

図 28　我孫子市指定等文化財件数一覧（類型別）

種類		件数
古文書（家）		44
石造物		9,920
寺院		32
神社		30
建造物（築 75 年以上）		89
民俗調査	講	17
	伝承	30

図 29　我孫子遺産把握件数

（令和 2 年 9 月現在）

出典）我孫子市教育委員会（2021）「我孫子市文化財保存活用地域計画」p.47

（3）検討の視点

この小論はプロジェクト研究「グローカルデザイン」での議論、検討を基にしているが、社会システム研究所ウエブサイト[3]では、グローカルデザインを次のとおり定義している。

（中略）今日、日本のあらゆる地域が人、物、サービス、情報のグローバルなつながりを持っているという事実に着目します。そして、地域がそのグローバルなつながりを生かしながら、地域固有の歴史・文化・産業・自然環境などの資源を活用して将来の経済社会の目標を描き、実現していくという手法を提案し、これをグローカルデザインと名付けました。そして、グローカルデザインの前提となる地域の潜在力を体系的に把握するとともに、（略）ローカルでありながらグローバルなつながりを生かした地域の活力ある経済社会の将来像を描くことを目指しています。

本稿の目的は、この「ローカルでありながらグローバルなつながりを生かした地域の活力ある経済社会の将来像を描く」ことにある。

この目的を達成するため、まずは、我孫子市の人口動態とその変化の要因を確認していく。続いて、国勢調査を活用しながら、我孫子市と他地域（含む諸外国）とのつながりを明らかにしていく。また、「地域経済分析システム（ＲＥＳＡＳ）」[4]を活用しながら、地域経済の所得循環の全体構造（地域経済循環構造）を念頭に置きながら、地域経済面でのつながりを分析し、そこから我孫子市の活力ある将来像に必要な諸施策を提言していく。

（4）我孫子市の人口動態

①総人口の推移と見通し

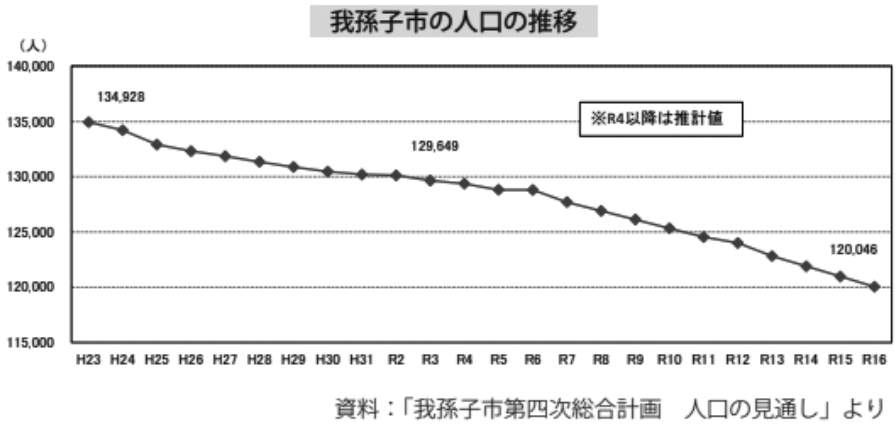
我孫子市の総人口は、住宅開発に伴って昭和30年代から増加してきた。昭和45（1970）年の市制施行時に約5万人だった人口は上昇し、平成23（2011）年には134,928人でピークを迎え、その後は減少に転じている。令和3（2021）年の総人口は129,649人となっており、ピーク時と比較して5,279人の減となっている。

我孫子市は、「我孫子市第四次総合計画」（p.11）において、図2のとおり将来人口の見通しを示している。これは、国立社会保障・人口問題研究所のデータを基にした市独自の推計であるが、令和16（2034）年には、120,046人まで減少すると予測している。

3　中央学院大学社会システム研究所ウエブサイト「グローカルデザインとは」
https://www.cgu.ac.jp/socialsystem/glocal_design/about.html

4　地域経済分析システム（RESAS：リーサス）は、地方創生の様々な取り組みを情報面から支援するために、経済産業省と内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局が提供しているシステムである。英語表記（Regional Economy and Society Analyzing System）の頭文字を取って、「RESAS（リーサス）」と呼ばれている。

図２　我孫子市における将来人口の展望

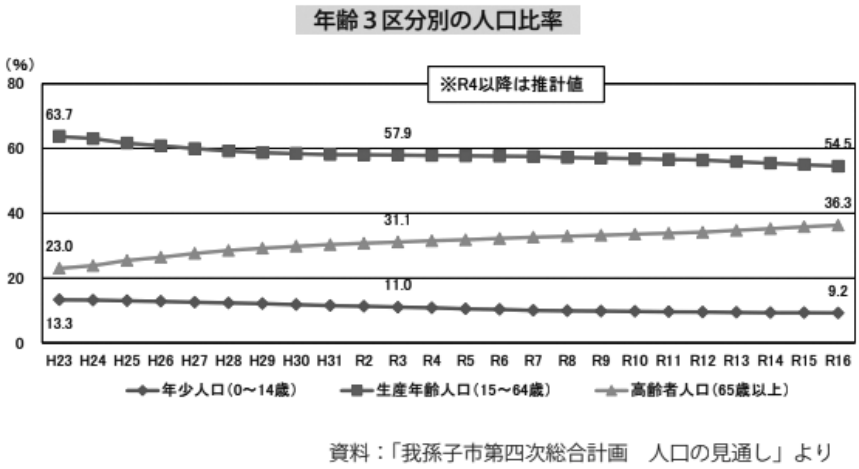


出典）我孫子市（2022）「我孫子市第4次総合計画」p.11

②年齢３区分別の人口比率

我孫子市の年齢３区分別の人口比率の推移を見ていく。図３のとおり、高齢者人口比率が上昇しているのに対して、年少人口と生産年齢人口の比率は低下が長期的に続いている。このため「活力ある経済社会の将来像」を構想する上で、生産年齢人口の確保が大きな課題となっている。

図３　我孫子市における年齢３区分別人口比率の推移

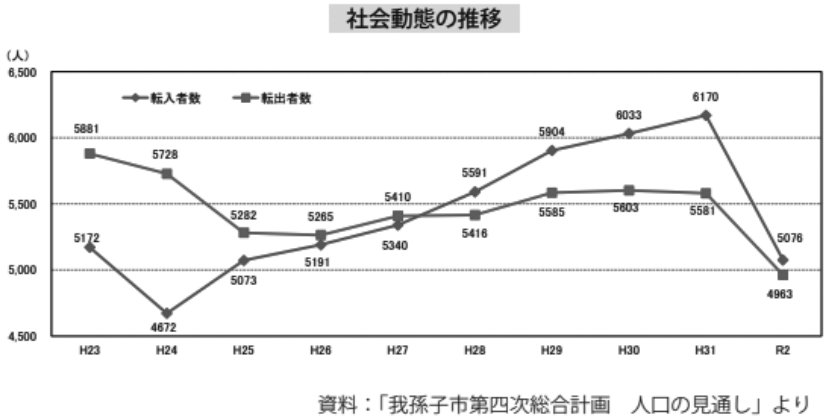


出典）我孫子市（2022）「我孫子市第4次総合計画」p.12

③我孫子市の社会動態

図４により、我孫子市の社会動態を見ていくことにする。我孫子市では、平成 27（2015）年までは、転出者数が転入者数を上回る社会減が続いていたが、平成 28（2016）年以降は転入者数が転出者数を上回る社会増に転じている。

図４　我孫子市における社会動態の推移

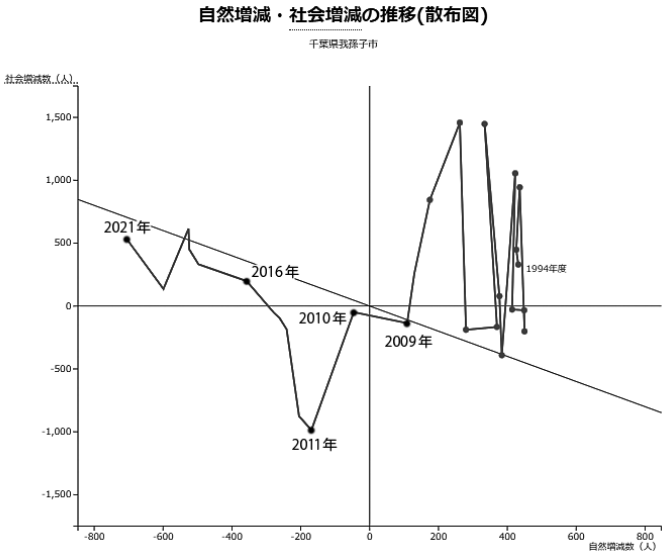


出典）我孫子市（2022）「我孫子市第4次総合計画」p.13

図５により、我孫子市の自然増減・社会増減の傾向を見ていくと、平成 21（2009）年以降、自然減が深刻化し、自然減・社会減となっている。しかし、平成 28（2016）年以降は、自然減・社会増に転じている。

このように我孫子市の人口減少は、自然減の影響を大きく受けている。今後は社会増減の動向によっては、人口減少がより深刻化する可能性がある。

図５　我孫子市の自然増減・社会増減の推移



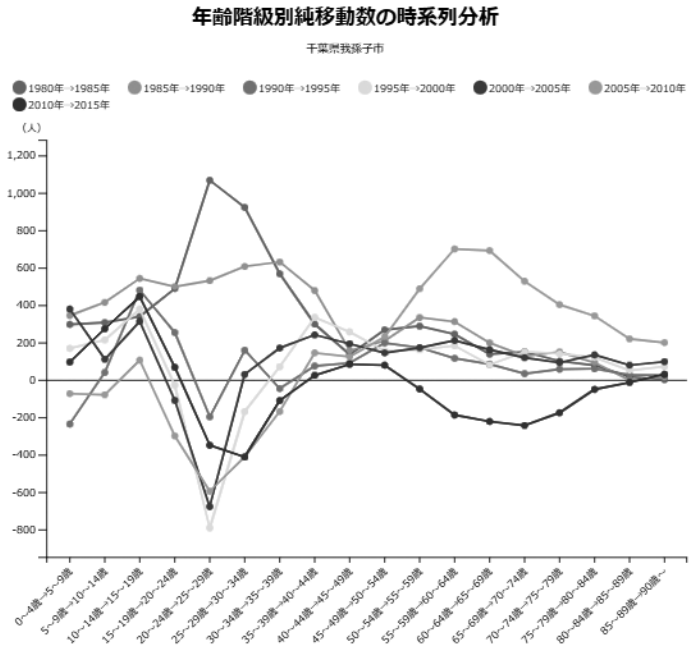
出典）ＲＥＳＡＳ「人口マップ（人口増減）」に著者が加筆。

次に、我孫子市の「年齢階級別純移動数の時系列分析」（図６）を見ていくと、時代によって若干異なるが、「20 ～ 24 歳→ 20 ～ 29 歳」と「15 歳～ 19 歳→ 20 ～ 24 歳」で転出者が

圧倒的に増加（転出超過）している。これは進学・就職による社会移動と考えられる。

しかし、「25 歳～ 29 歳→ 30 ～ 34 歳」以降、この傾向は改善し、「35 歳～ 39 歳→ 40 歳～ 44 歳」では転入超過へと転じている。なお、「2010 年→ 2015 年」は過去の傾向と異なる点で注意が必要である。

図６　我孫子市の「年齢階級別純移動数の時系列分析」



出典）ＲＥＳＡＳ「人口マップ（人口の社会増減）」

では、こうした人口の社会増減（社会移動）は、どこの地域との間で生じているのであろうか。ＲＥＳＡＳの「From-to 分析（定住人口）」分析を活用して、社会増減の地理的傾向を把握していくことにする。

まず、年代別で最も転出傾向が大きい 20 歳代の転出先について、令和３（2021）年の上位 10 位までを整理したものが、表３である。

表３　我孫子市からの転出数
（20 歳代・総数 1,803 人）

1位 千葉県柏市 203人 (11.26%)
2位 千葉県松戸市 117人 (6.49%)
3位 東京都足立区 57人 (3.16%)
4位 千葉県船橋市 55人 (3.05%)
5位 神奈川県横浜市 52人 (2.88%)
6位 千葉県千葉市 51人 (2.83%)
7位 千葉県流山市 44人 (2.44%)
8位 神奈川県川崎市 37人 (2.05%)
9位 茨城県取手市 31人 (1.72%)
10位 千葉県印西市 29人 (1.61%)

出典）ＲＥＳＡＳ「人口マップ
（人口の社会増減・From-to 分析（定住人口）」

次に、年代別で転入傾向が目立ち始める30歳代が、どこの市町村から我孫子市に転入してきているのかを把握するため、令和３（2021）年の転入数の上位10位までを整理したものが、表４である。

（５）我孫子市と周辺地域とのつながり

我孫子市と周辺地域とのつながりを明らかにしていくため、国勢調査の「従業地・通学地による人口・就業状態等集計」[5]を活用する。これは、従業地・通学地による人口の構成や、現在住んでいる市区町村と通勤・通学先の市区町村との関係などを集計したものである。

この結果によって、我孫子市に常住する就業者はどの市区町村に勤めているか（従業地別就業者数）や、我孫子市の流入・流出人口（就業者・通学者）などの観点から、当該地域と周辺地域のつながりを把握していく。

表４　我孫子市への転入数
（30歳代・総数1,057人）

1位 千葉県柏市 155人 (14.66%)
2位 千葉県松戸市 75人 (7.10%)
3位 千葉県流山市 37人 (3.50%)
4位 千葉県印西市 30人 (2.84%)
5位 千葉県船橋市 28人 (2.65%)
6位 神奈川県横浜市 26人 (2.46%)
7位 東京都足立区 25人 (2.37%)
8位 茨城県取手市 23人 (2.18%)
9位 千葉県千葉市 22人 (2.08%)
10位 神奈川県川崎市 21人 (1.99%)

出典）ＲＥＳＡＳ「人口マップ
（人口の社会増減・From-to分析（定住人口）」

①我孫子市の「昼間人口・夜間人口」

我孫子市（平成27年）においては、表５のとおり、夜間人口は13.1万人、昼間人口は10.4万となっており、昼間人口＜夜間人口の状況にある。昼夜間の人口差は△27,516人、昼夜間比率（昼間人口÷夜間人口）は79.1％と流出超過の状況にある。

表５　昼間人口・夜間人口

各年１０月１日現在

区　分	昼間人口	夜間人口	流出人口	流入人口	流出超過数
平成12年	99, 390	127, 305	49, 119	21, 204	△ 27915
17	101, 155	131, 203	48, 174	18, 126	△ 30048
22	108, 510	134, 017	42, 214	16, 707	△ 25507
27	**104, 090**	**131, 606**	**43, 426**	**15, 910**	**△ 27516**

資料：行政管理課（国勢調査）

※ 昼間人口＝夜間人口－流出人口＋流入人口
※ 夜間人口は10月1日時点の常住人口
※ 令和２年国勢調査結果は、令和４年７月に総務省より公表予定

出典）「我孫子市2021統計」２－13（p.40）

5　本稿では「我孫子市2021統計書」に掲載されているデータを活用していく。

②我孫子市の「従業地・通学地別人口」

我孫子市の人口（夜間人口）を従業地・通学地別にみると、表６のとおり、「自市で従業・通学」は約 2.7 万人 (夜間人口に占める割合 21.2%)、「他市で従業・通学」は 4.3 万人 (同 33.0%)、「従業も通学もしていない」は 4.8 万人 (同 36.8%) となっている。

表６　従業地・通学地別人口の状況（我孫子市）

従業地・通学地			実数（人）	割合（%）
総数（夜間人口）			131,606	100.0
	従業も通学もしていない		48,372	36.8
	自市で従業・通学		27,901	21.2
		自宅	4,071	3.1
		自宅外	23,830	18.1
	他市で従業・通学		43,426	33.0
		県内	18,046	13.7
		県外	25,380	19.3

出典）「我孫子市2021統計」2－18（pp.43-44）を基に著者作成。

③我孫子市の「従業地別就業者数」

我孫子市に常住する就業者を従業地別に分類すると、表７のとおり、「自市（自宅外）で従業」は 23.6%、「県内他市区町村で従業」は 26.5%、「他県で従事」は 38.4%である。つまり、我孫子市に常住する就業者の約 65%が他市区町村で仕事に従業していることになる。

表７　従業地別就業者数の状況（全体）

区分			実数（人）	割合（%）
総数（常住地・就業者数）			58,794	100.0
	自市（自宅外）で従業		13,876	23.6
		男	5,240	8.9
		女	8,636	14.7
	県内他市町村で従事		15,594	26.5
		男	8,403	14.3
		女	7,191	12.2
	他県で従事		22,573	38.4
		男	16,155	27.5
		女	6,418	10.9

出典）「我孫子市2021統計」2－18（pp.43-44）を基に著者作成。

これを男女別にみると、男性は「自市（自宅外）で従業」が 8.9％、「県内他市町村で従業」が 14.3％、「他県で従事」が 27.5％である。女性は「自市（自宅外）で従業」が 14.7％、「県内他市町村で従業」が 12.2％、「他県で従事」が 10.9％である。つまり、就業者（男性）の約 42％、就業者（女性）の約 23％が我孫子市外で仕事をしているのである。

④我孫子市の「流入・流出人口（就業者・通学者）」

ここで分析する「流入・流出人口（就業者・通学者）」について定義する。X市における流出人口（就業者・通学者）とは、X市に常住しX市以外へ通勤・通学する人口をいう。流入人口（就業者・通学者）とは、X市以外に常住しX市に通勤・通学する人口をいう。

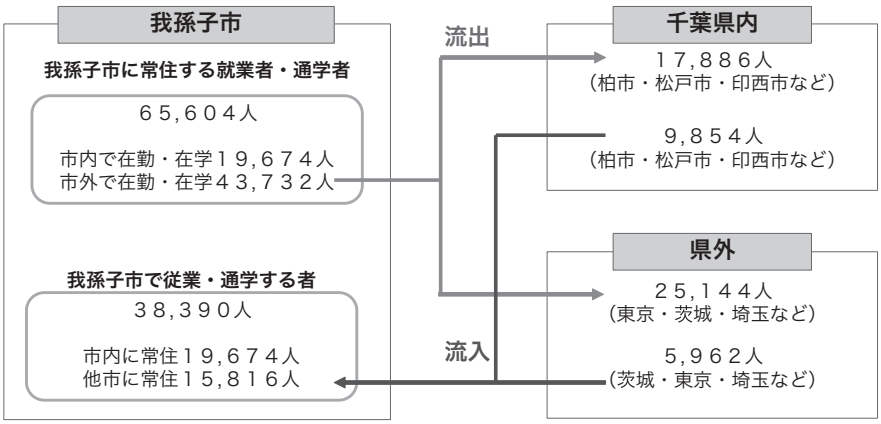
分析対象とする我孫子市にあてはめれば、我孫子市に常住する者（就業者・通学者）が、市外（他市区町村）で在勤・通学するということは、我孫子市（従業地・通学地）からの流出人口となる。

これとは逆に、我孫子市で従業・通学する者のうち、他市（他市区町村）に常住する者は、他市区町村に常住している人が我孫子市で従業・通学するためにやってくる。つまり、我孫子市（従業地・通学地）への流入人口となる。

こうした人の動き（つながり）を模式的に整理したのが、図７である[6]。具体的には、「我孫子市に常住する者（就業者・通学者）」65,504 人のうち、市外（他市区町村）で在勤・在学する者（流出人口）は 43,732 人である。一方「我孫子市で従業・通学する者」のうち、他市に常住する者（流入人口）は 15,816 人である。

次に、我孫子市への「流入人口」と「流出人

図７　流入人口・流出人口（全体）



出典）「我孫子市2021統計」2－19、2-20（pp.45-46）を基に著者作成。

6　常住する就業者・通学者には、従業地・通学地が不祥の者がいるため、合計が一致しない。

口」の市町村別の内訳を分析していくことにする。表８のとおり、流入人口（他市区町村から我孫子市への就業者・通学者）は 15,816 人（就業者 12,196 人＋通学者 3,620 人）である。この内訳は、県内 9,854 人に対して県外 5,962 人となっており、千葉県内市町村からの流入が中心となっている。

表８により、県内から我孫子市へ流入してくる市町村の内訳を具体的に見ていくと、柏市、松戸市、流山市、印西市などとなっている。

また、県外から我孫子市に流入している主な市区町区村の内訳は、取手市、東京都（特別区内）、龍ヶ崎市、利根町、守谷市、牛久市などとなっている。

一方、流出人口（我孫子市から他市区町村への就業者・通学者）は 43,732 人（就業者 38,826 人＋通学者 4,906 人）である。この内訳は、県内 17,886 人に対して県外は 25,144 人となっており、県外市区町村への流出が中心となっている。

我孫子市から流出している県内市町村の主な内訳は、柏市、松戸市、流山市、印西市、白井市、千葉市、船橋市となっている。

また、我孫子市から流出している県外市区町区村の主な内訳は、東京都（特別区内）、取手市、つくば市、土浦市、牛久市、さいたま市、守谷市となっている。

表８　　流入人口・流出人口（県内外・市区町村別内訳）

2015（H27）年		我孫子市への流入人口（A）（他市に常住）			我孫子市からの流出人口（B）（他市で従業・通学）			流入－流出		
		総数	就業者	通学者	総数	就業者	通学者	総数	就業者	通学者
他市区町村・総計		15,816	12,196	3,620	43,732	38,826	4,906	-27,916	-26,630	-1,286
県内	県内計	9,854	7,403	2,451	17,886	15,594	2,292	-8,032	-8,191	159
	千葉市	187	128	59	695	593	102	-508	-465	-43
	船橋市	356	281	75	625	543	82	-269	-262	-7
	松戸市	1,442	983	459	2,392	1,994	398	-950	-1,011	61
	柏市	4,075	3,249	826	8,679	7,615	1,064	-4,604	-4,366	-238
	流山市	864	626	238	808	636	172	56	-10	66
	印西市	828	665	163	1,147	1,112	35	-319	-447	128
	白井市	237	188	49	745	742	3	-508	-554	46
	栄町	290	187	103	91	91		199	96	103
県外	県外計	5,962	4,793	1,169	25,144	22,573	2,571	-19,182	-17,780	-1,402
	東京都	1,121	841	280	19,176	17,552	1,624	-18,055	-16,711	-1,344
	茨城）取手市	1,358	1,196	162	1,371	1,217	154	-13	-21	8
	茨城）つくば市	173	123	50	502	414	88	-329	-291	-38
	茨城）土浦市	167	153	14	433	284	149	-266	-131	-135
	茨城）牛久市	280	251	29	301	146	155	-21	105	-126
	茨城）守谷市	299	256	43	228	228		71	28	43
	茨城）龍ヶ崎市	491	431	60	222	203	19	269	228	41
	茨城）利根町	398	349	49	74	74		324	275	－
	埼玉）さいたま市	129	96	33	281	220	61	-152	-124	-28

・「我孫子市への流入人口（A）」は、従業地・通学地による常住市区町村別15歳以上就業者数及び通学者数による。
・「我孫子市からの流出人口（B）」は、常住地による従業・通学市区町村別15歳以上就業者数及び通学者数による。
・県内、県外の内訳は、主なものを抜粋している。

出典）「我孫子市2021統計」2－19、2-20（pp.45-46）を基に著者作成。

⑤在留外国人データ

次に、我孫子市のグローバルなつながりを確認するため、在留外国人住民の状況を見ていくことにする。

我孫子市の在留外国人数[7]は、2,022 人（令和４年４月１日現在）、全人口 (131,147 人) に占める割合は 1.5% である。外国人世帯数は 907 世帯であり、全世帯数（60,722 世帯）に占める割合は 1.7%である。

在留外国人数の時系列的な推移は、表９のとおりである。また、表９により、国別に上位５位までの見ると、中国が最大で 592 人、次いでベトナム 246 人、フィリピン 222 人、韓国 208 人、ネパール 140 人となっている[8]。

表９　我孫子市外国人住民の状況

２－６　外国人国籍別住民人口

（１）総数　　各年１月１日現在

区　分	男	女	総　数
平成30年	987	944	1,931
31	1,041	979	2,020
令和２年	1,023	1,039	2,062
3	946	1,049	1,995
4	948	1,043	1,991

資料：市民課

(2) 令和4年1月1日現在
上位５か国

国　名	人　数
中国	592
ベトナム	246
フィリピン	222
韓国	208
ネパール	140
その他	583

資料：市民課

※平成２５年より「外国人国籍・地域別人員集計表」による外国人住民人口。
※「住民基本台帳法の一部を改正する法律」が平成２４年７月９日に施行され、外国人住民も住民基本台帳制度の対象になりました。住民基本台帳に記載される外国人とは入管法・入管特別法に基づき適法に９０日を超えて在留する外国人であって住所を有する者のうち、３か月以下の在留期間が決定された者や短期滞在・外交・公用の在留資格が決定された者等以外の者です。

出典）「我孫子市2021統計」2-6（p.35）

（６）国勢調査等から見た我孫子市のグローカルなつながり

以上の観察結果をまとめると次のとおりとなる。

１）我孫子市内に常住する就業者・通学者のうち、43,732 人が市外に流出している。

２）我孫子市内で従業・通学する者のうち、15,816 人が市外から流入している。

３）１）と２）を比較すると、流入人口＜流出人口、つまり流出超過となっている。

４）総じて、他地域から我孫子市に通勤・通学する人数よりも、我孫子市から他地域へと通勤・通学する人数の方が多く、流出超過となっている。つまり、我孫子市は周辺地域の人材供給源となっている。ただし、就

7　我孫子市ホームページ「令和４年度我孫子市住民基本台帳人口・世帯数」
https://www.city.abiko.chiba.jp/shisei/toukeijoho/toukei/jinoku_setai/abk10002200220220405.html

8　我孫子市（2022）「我孫子市 2021 統計」p.34

業者数の一部（牛久市・守谷市・利根町・栄町）、就学者の一部（印西市・利根町・栄町）においては、我孫子市が流入超過となっている。

5）我孫子市への「流入人口」と我孫子市からの「流出人口」の市町村別内訳は、共通している。県内市町村では柏市、松戸市、流山市、印西市、白井市、千葉市、船橋市と、県外市区町区村では、東京都（特別区内）、取手市、つくば市、土浦市、牛久市、さいたま市、守谷市とのつながりが確認された。また、人口動態（社会動態）の転入、転出市町村の内訳も上記と重なり合う傾向が見られた。

6）外国人国籍別住民人口は、全人口の 1.5% であり、中国、ベトナム、フィリピン、韓国、ネパールが上位５位となっている。

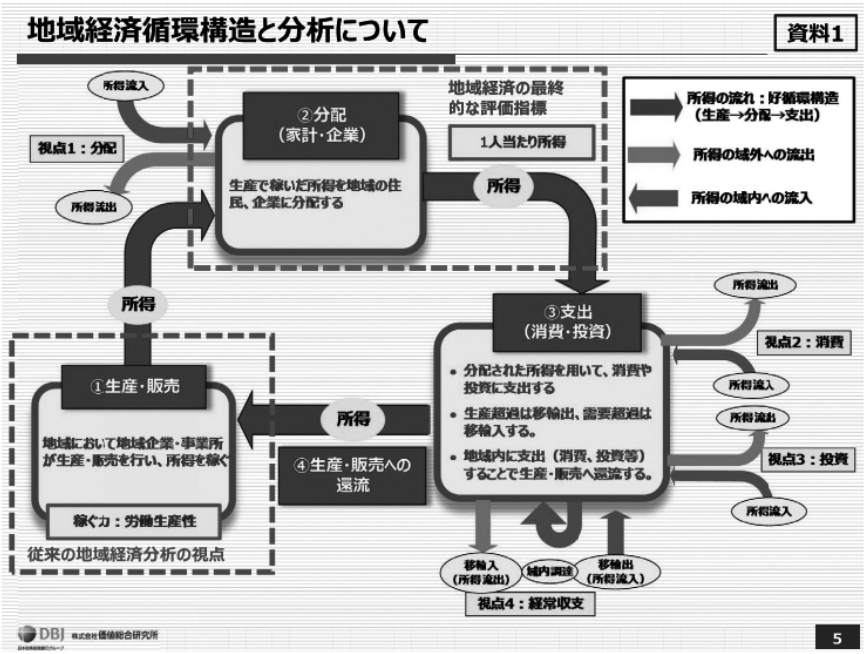
２．我孫子市のグローカルデザイン

（１）提案の視点

本稿では、我孫子市のグローカルデザインを提案する際の視点として地域経済循環構造を念頭におきながら、我孫子市の地域経済面でのつながりを分析し、そこから必要と考えられる諸施策をグローカルデザインとして提言していく。

地域経済循環構造とは、「生産・販売（所得の向上）」「分配（家計や企業の受け取り）」「支出（消費や投資等の所得の使い方）」の経済の三面における所得の循環と地域内外の所得の流出入を示すものである[9]。

図８　地域経済循環構造と地域経済循環分析の視点



出典）https://www.chisou.go.jp/sousei/resas/pdf/180606_siryou1.pdf

9　日本政策投資銀行・価値総合研究所（2019）p.40

具体的には、図８のとおり、①生産・販売は地域の企業、事業所が財・サービスを生産・販売して所得を得ることであり、この生産面で得た所得が家計や企業に分配される（②分配（家計・企業））。そして分配された所得を消費や投資等で支出することになる（③支出（消費・投資））[10]。さらに、支出面で消費や投資された所得が、④生産・販売へと還流して再生産・販売に繋がり、地域の所得を拡大させることが出来るのである[11]。

地域経済循環の好循環とされるパターン[12]は次のとおりである。つまり、生産面では稼ぐ力が強ければ（労働生産性が高ければ）所得が増加し、ここで得た所得を地域住民及び企業に分配することができる。この生産・販売から分配に至る過程で、他地域からの企業所得や財産移転等の所得流入があり、当該地域で得た所得よりも大きな所得を得ることができていれば、住民の所得が高い状態になる。そして、支出面でも民間消費や設備投資が地域外から流入し、さらに経常収支でも流入している状態であれば、地域内の所得が大きくなっていることになる。これら支出面の所得の流入は生産面に還流され、頑健な所得循環構造が構築されることになる。

本稿では、地域経済循環の好循環パターンを念頭に置きながら、我孫子市のケースについて分析し、その課題を抽出していくことにする。

（２）我孫子市の地域経済循環の概要

地域経済循環とは、前述のとおり、①地域内企業の経済活動を通じて生産された付加価値が、②労働者や企業の所得として分配され、③消費と投資として支出されて、再び地域内企業に還流する、地域における「お金の流れ」の構造である。

ＲＥＳＡＳの「地域経済循環マップ」（地域経済循環図）は、こうした地域のお金の流れを「生産（付加価値額）」「分配（所得）」「支出」の三段階で見える化し、確認することを可能とする。

我孫子市の地域経済循環構造（地域経済循環図）は、図９のとおりである。

まず、地域内企業の経済活動（生産）により、2,767 億円の付加価値[13]を生み出し、所得として分配される。この所得から地域住民等は 4,889 億円を支出しているが、所得からの支出（分配⇒支出）に至る過程で、2,122 億円の所得が地域に流入している。そして、地域内の支出から生産に 2,767 億円が還流している。

図９の左上にある「地域経済循環率」とは、生産（付加価値額）を分配（所得）で除した値であり、地域経済の自立度を示している。値が低いほど他地域から流入する所得に対する依存度が高いことを示す。

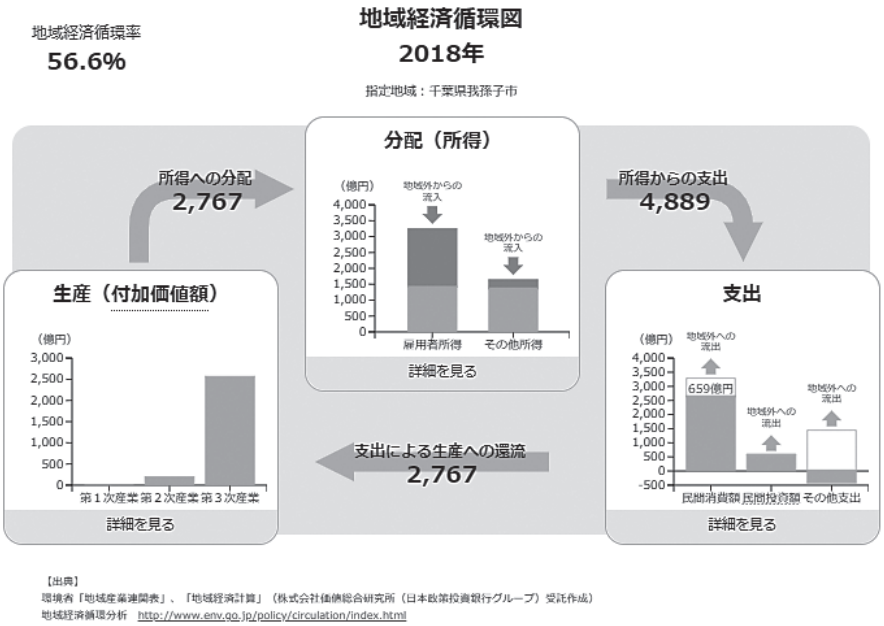
10　前掲 9）p.41

11　前掲 9）p.41

12　前掲 9）pp.45-46

13　RESAS における「付加価値額」とは、域内に所在する事業所が事業活動を通じて新たに生み出した価値を指し、生産高（売上高）から商品仕入高、材料費、および外注加工費を差し引いたものである。また、域内の純生産高から、原材料費等の中間投入を控除した値。県民経済計算における県内総生産と同じ概念でもある。経済センサスにおける付加価値額とは異なるので注意が必要である。

図９　我孫子市の地域経済循環構造（2018 年）



出典）ＲＥＳＡＳ「地域経済循環マップ」（我孫子市）

我孫子市は 56.6％となっているが、本プロジェクトで研究対象としている市町村についてみると、ニセコ町 67.7％、那須塩原市 90.2％、太田市 128.4％、出雲市 86.4％となっている。つまり、我孫子市は地域経済循環率が最も低い状況である。

（３）我孫子市の「生産（付加価値額）」面の分析

ＲＥＳＡＳの地域経済循環図では、当該地域における第１次産業、第２次産業、第３次産業の付加価値額を比較することが可能である。我孫子市においては、図９のとおり、第３次産業（2,565 億円）が最も多く、第２次産業（194 億円）、第１次産業（７億円）の順となっている。

ＲＥＳＡＳを活用することにより、主要産業となっている第３次産業の構成比を我孫子市、千葉県平均、全国それぞれと比較することが可能であるが、図 10 のとおり、我孫子市は県平均、全国よりも約 30 ポイント程度上回っている。

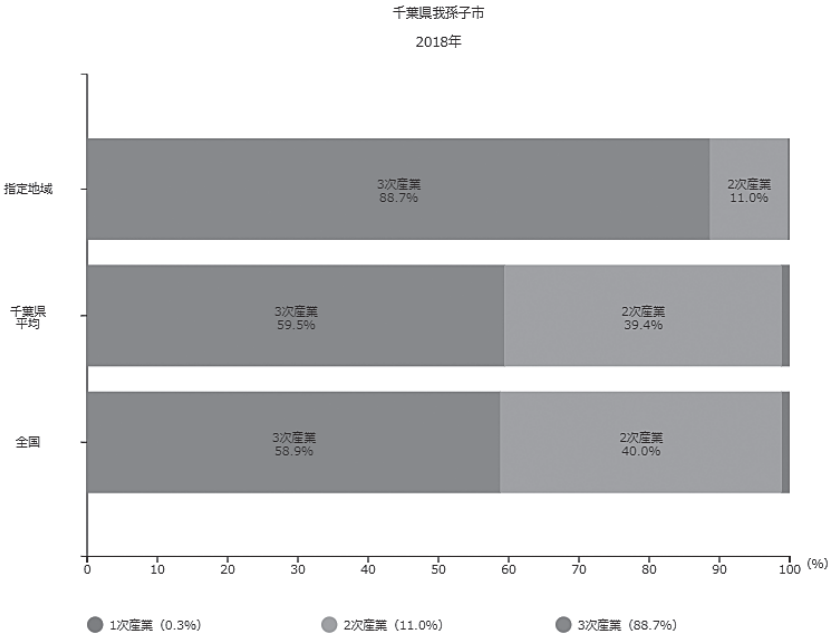
一方で、第２次産業は 456 億円（11.0%）となっている。我孫子市の第２次産業は千葉県平均、全国と比較すると、これらを大きく下回っている。

各産業の従業者一人当たりの付加価値額（労働生産性）[14] とその全国順位 [15] は、表 10 のとおりであるが、第３次産業は 1719 市区町村中 271 位の高順位であるのに対して、第２次産業は 1,583 位とかなり悪い順位である。

14 「労働生産性」は労働者１人が１年間に生み出した付加価値である。付加価値額を従業員数で除したものである。労働の効率性を計る尺度であり、労働生産性が高い場合は、投入された労働力が効率的に利用されていると言える。

15 表に記載されている順位は、都道府県単位では全国 47 都道府県、市区町村単位は全国 1,719 市区町村におけるランキングとなっている。

図 10　地域産業の構成割合（我孫子市：2018 年）



出典）ＲＥＳＡＳ「地域経済循環マップ」（我孫子市）

表 10　我孫子市の「付加価値額（一人当たり・2018 年)」

	第１次産業	第２次産業	第３次産業
付加価値額（一人当たり）	358万円	476万円	949万円
付加価値額（一人当たり）順位	466位	1,583位	271位

出典）ＲＥＳＡＳの「地域経済循環マップ」（我孫子市）

地域経済循環を構築するためには、①地域内外から所得を得る→地域の稼ぐ力の向上と、②得た所得を地域内で循環させる→所得循環構造の構築が重要な視点となる[16]。

地域の稼ぐ力の向上には、地域の核（コア）となる産業の強化が必要となるが、我孫子市においては第３次産業の強化が課題となる。また、所得循環構造の観点からは、第２次産業に対する設備投資を地域に流入させることにより、所得の上昇と労働生産性の向上が期待できる。このため、第２次産業の強化やそこに対する地域内外からの設備投資の促進も課題となる。

16　前掲 9）p.46,pp.51-52

（4）我孫子市の「分配（所得）」面の分析

地域経済循環図の「分配（所得）」では、地域産業が稼いだ付加価値額がどのように所得として分配されたのかを把握することが可能である。「分配（所得）」は、主に労働者が労働の対価として得る賃金や給料等、雇用者に支払われた「雇用者所得」と、財産所得、企業所得、交付税、社会保障給付、補助金等、雇用者所得以外の「その他所得」で構成されている。

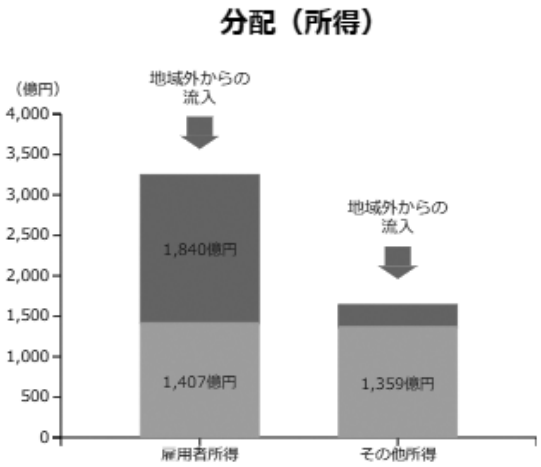
これらは、棒グラフとして表示されるが、各棒グラフは、地域内の住民・企業等に分配された所得の総額を示している。地域内の住民・企業等が稼ぐ所得より、地域の産業が分配する所得が少ない場合は、その差額が赤色で表示され、地域外から所得が流入していることを意味する。逆に、地域内の住民・企業等が稼ぐ所得より、地域の産業が分配する所得が多い場合は、その差額が空白の四角で表示され、所得が地域外に流出していることを意味する。

我孫子市の分配（所得）の内訳について、図11で示す。我孫子市の雇用所得の内訳は、所得（地域内勤務者ベース）が1,407億円であるのに対し、地域外からの流入は1,840億円である。

後者の地域外からの流入は、住民の居住地と従業地の所得の移動、つまり、通勤移動による所得の移動である。つまり、我孫子市の雇用所得のうち約57％は、通勤移動による地域外からの流入によるものである。

雇用者所得以外の「その他所得」は、前述のとおり、財産所得、企業所得、財政移転の合計であるが、所得（地域内勤務者ベース）は1,359億円であるのに対し、地域外からの流入は282億円となっている。

図11　我孫子市の「分配（所得）」の内訳（2018年）



出典）図８を著者が拡大。

次に、従業者一人当たり「雇用者所得」及び人口一人当たり「その他所得」を確認する。我孫子市の状況は、表11のとおりである。

我孫子市の一人当たり「雇用者所得」は248万円であり、1,719市区町村中全国順位408位となっており、比較的高い水準にある。このため、他地域と比較して優位にあると言えるであろう。

表 11　我孫子市の所得（一人当たり・2018 年）

	雇用者所得	その他所得
所得（一人当たり）	248万円	125万円
所得（一人当たり）順位	408位	1,737位

出典）ＲＥＳＡＳの「地域経済循環マップ」（我孫子市・2018年）

（5）我孫子市の「支出」面の分析

地域経済循環図の「支出」では、地域内の住民・企業等に分配された所得がどのように使われたかを把握することが可能である。「支出」は、住民の消費等を示す「民間消費額」、企業の設備投資等を示す「民間投資額」の他、政府支出、地域内産業の移輸出入収支額等を示す「その他支出」[17] で構成される。

これらは、棒グラフとして表示されるが、各棒グラフは、地域内で消費・投資された金額を示している。地域内の住民・企業等が支出した金額より、地域内に支出された金額が少ない場合は、その差額がグラフでは空白の四角で表示される。これは、「支出」が地域外に流出していることを意味する。逆に、地域内の住民・企業等が「支出」した金額より、地域内に「支出」された金額が多い場合は、その差額が赤色のグラフとして表示される。これは、「支出」が地域外から流入していることを意味する。

我孫子市の「支出」の内訳について、図 12 で示す。図 12 を具体的に見ていくことにすると、まず、我孫子市の「民間消費額」の内訳は、支出（地域内ベース）が 2,627 億円、地域外に流出が 659 億円となっている。地域外に流出の規模は 659 億円（約 20%）である。後者の地域外に流出の存在は、地域内の消費（需要）を域内で吸収できていないことを意味する。

「民間消費額」の流出入には 2 つがある。1 つは買い物等による日常の消費であり、もう 1 つは観光等による非日常の消費である。「支出による生産への還流」を増やしていくには、日常の消費と非日常の消費の双方から、域外からの流入を増やしていくことが課題となる。

次に、「民間投資額」の内訳は、支出（地域内ベース）が 560 億円、地域外に流出が 17 億円となっている。設備投資は実物の投資であり、投資の流入は他地域の設備投資予算が地域内に工場、事務所、機械設備等として投入（投資）されていることを意味し、投資の流出は、これとは逆を意味する。

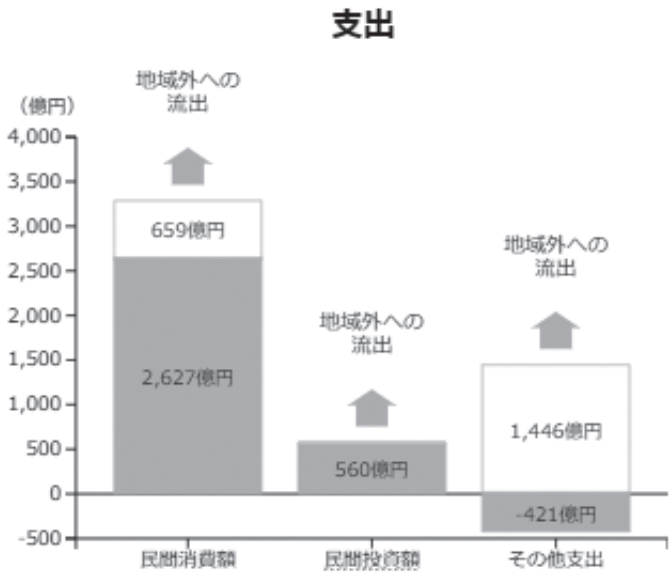
つまり、我孫子市では、図 12 のとおり、地域外からの投資を呼び込めていないとの課題が存在するのである。

前述のとおり、所得循環構造の観点からは、

17　その他支出は、「政府支出」＋「地域内産業の移輸出 - 移輸入」により構成される。例えば、移輸入が移輸出を大きく上回り、その差が政府支出額を上回る場合（域外からの財・サービスの購入を通じた所得流出額が政府支出額よりも大きい場合）は、「その他支出」の金額がマイナスとなる。

第２次産業に対する設備投資を地域に流入させることにより、所得の上昇と労働生産性の向上が期待できる。このため、第２次産業の強化と地域内外からの設備投資の促進策が必要となる。

図 12　我孫子市の「支出」の内訳（2018 年）



出典）図８を著者が拡大。

ＲＥＳＡＳでは、地域内の住民・企業等が支出した金額に対する流出入額の比率を示す「支出流出入率」を把握することができる。プラスの値は地域外からの流入、マイナスの値は地域外への流出を示している。

我孫子市の支出流入率の状況は、表 12 のとおりである。民間消費の支出流入率は△ 20.1％であり、1,396 位 /1,719 市町村とかなり悪く、低い水準となっている。民間投資の支出流入率は△ 2.9％であり、524/1,719 市町村と中間程度の順位である。

表 12　我孫子市の支出流入率（2018 年）

	民間消費	民間投資	その他支出
支出流出入率	-20.1%	-2.9%	-141.0%
支出流出入率順位	1,396位	524位	1,672位

出典）ＲＥＳＡＳ「地域経済循環マップ」（我孫子市・2018年）

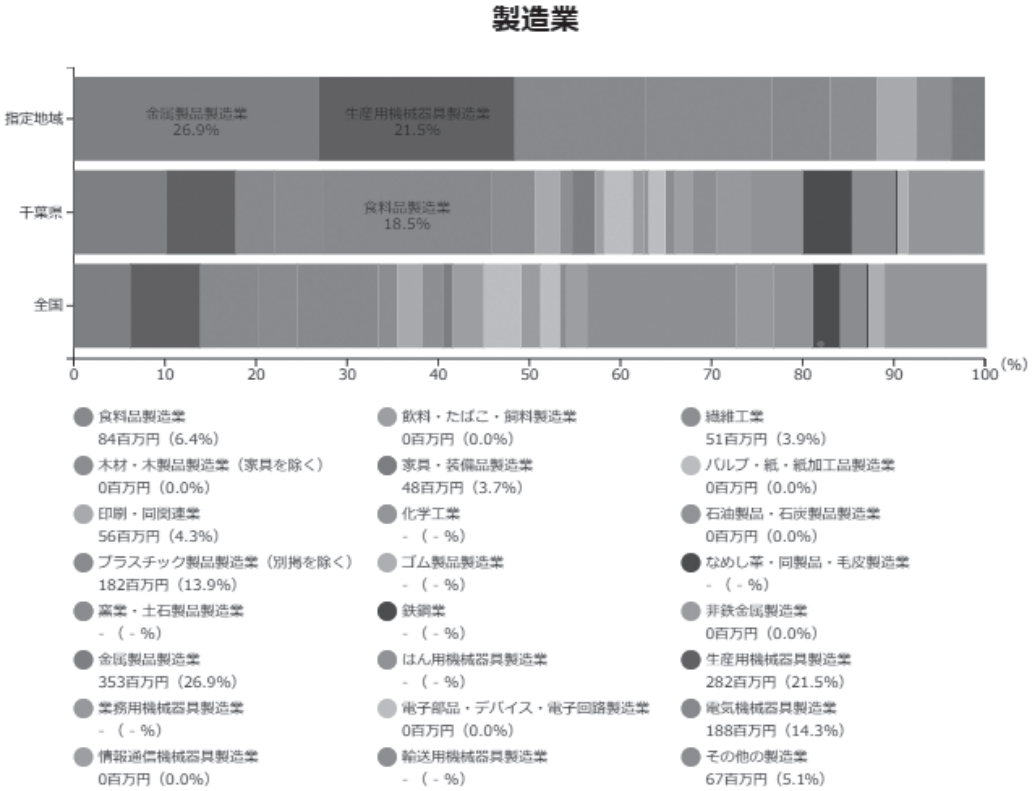
（6）我孫子市の製造業

第２次産業の強化と地域内外からの設備投資の促進策を検討するため、我孫子市の製造業の特徴を把握していくことにする。

後述するとおり、製造業の全国の構成比が23.8％であるのに対して、我孫子市の構成比は3.6％となっており、特化係数は0.15となる。

ここでＲＥＳＡＳの「産業構造マップ（全産業）」を使って、中分類により。製造業の内訳を全国と比較していく。製造業全体としては、全国を下回っているが、中分類で見ると、製造業の構成において、我孫子市の製造業の特徴を確認することが出来る。図13のとおり、全国と比較して、産業構成比が高いのは「金属製品製造業」（26.9％）、「生産用機械器具製造業」（21.5％）、「電気機械器具製造業」（14.3％）、「プラスチック製品製造業」（13.9％）である。

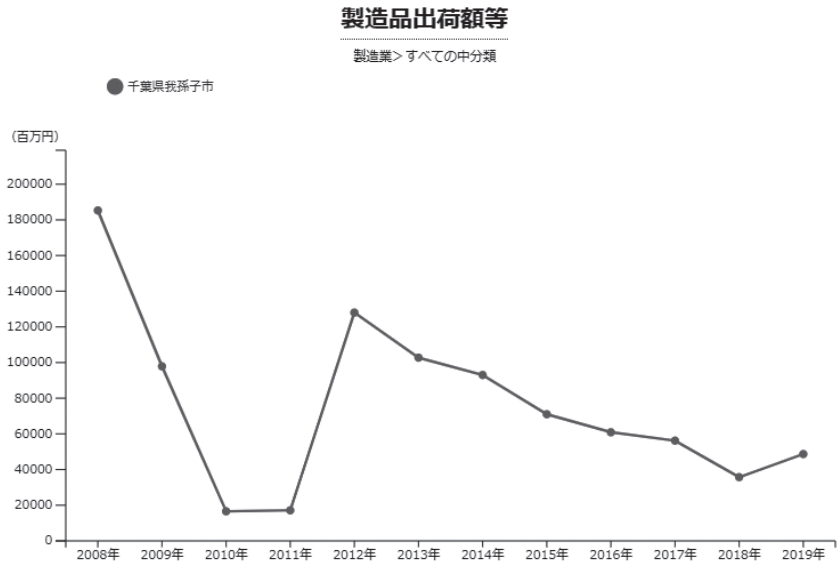
図13　我孫子市の付加価値額（製造業）：2016年



出典）ＲＥＳＡＳ「産業構造マップ（全産業）」

次に、我孫子市の製造品出荷額等の推移は、図14のとおりである。2008年には1,853億円であった。しかし、2008年から2010年にかけて、出荷額が大幅に減少しているが、これはリーマンショックの影響を受けたものと考えられる。2012年にはいったん上昇に転じるものの、以降は右肩下がりの減少傾向にあったが、2019年には再び上昇傾向に転じ、約486億円（全国809位・千葉県内29位）となっている。

図 14　我孫子市における製造品出荷額等の推移：2019 年

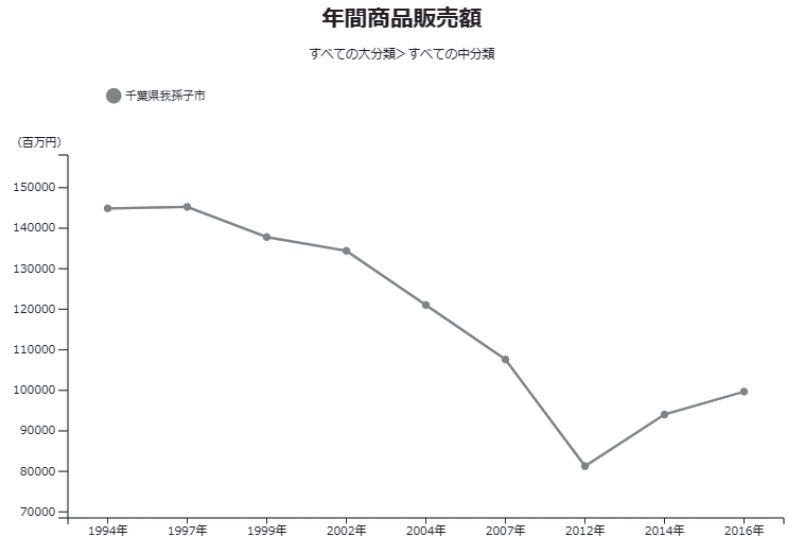


出典：ＲＥＳＡＳ「産業構造マップ（製造業・製造品出荷額）」

（７）我孫子市の小売・卸売業

民間消費額の地域外からの流入策を検討するため、我孫子市の商業の特徴を確認していく。我孫子市の小売・卸売業の年間商品販売額は、図 15 のとおり、1994 年以降減少傾向にあるが、2012 年に増加に転じ、2016 年には、9,967 億円となっている。

図 15　年間商品販売額（我孫子市）



出典）ＲＥＳＡＳ「小売・卸売業　年間商品販売額」（我孫子市）

我孫子市の主な商業施設は、我孫子駅北口にある「イトーヨーカドー我孫子南口店」（届出面積 10,033㎡）と、我孫子駅南口にある「あびこショッピングプラザ」（届出面積 17,383㎡）である[18]。こうした大規模商業施設に加えて、2022 年 3 月には、我孫子住宅展示場跡地に複合商業施設「フォルテ我孫子」（敷地面積 16,796㎡）が開業し、市内商業と日常の消費の活性化が期待されるところである。

しかし、隣接する柏市（旧東葛飾郡沼南町）には、沼南中央土地区画整理事業の一環として建設された「セブンパークアリオ柏」（届出面積 46,990 ㎡）[19] が 2016 年 4 月 25 日にオープンし、隣接する茨城県取手市（桑原地内）には、国内最大級とされる「イオンモール取手（仮称）」のオープンが 2025 年に予定されている[20]。

こうした近隣地域における商業施設開発は、市内商業の大幅な衰退と民間消費額の地域外流出の原因となり、今後の動向が懸念される。

佐藤・林（2022）においては、滞在人口率（＝滞在人口÷当該自治体の人口）に注目した分析を行った。この率は、地域の集客力や地域活性化のＫＰＩとなるが、我孫子市の休日における滞在人口率（2019 年）は、0.8 倍から 0.85 倍の範囲で推移しており、滞在人口が市の人口を下回っているとの課題もあり、市内の滞在人口を増やすための対策も必要となる。

（８）付加価値額から見た我孫子市の主要産業

ＲＥＳＡＳの「産業構造マップ 全産業」を使って、売上高、付加価値額、従業者数の各指標における産業別構成割合から、2016 年における我孫子市の主要産業を確認するなど、基礎的作業については、佐藤・林（2022）において行ってきた。

ここでは、我孫子市の付加価値額（企業単位・中分類）の内訳を再度確認しておく。図 16 のとおり、518 億 8 千 3 百万円の付加価値額が生み出されている。

この内訳は「医療、福祉（医療業）」「生活関連サービス、娯楽業（娯楽業）」「医療、福祉（社会保険・社会福祉・介護事業）」「教育、学習支援業（学校教育）」「情報通信産業（情報サービス業）」「建設業（総合工事業）」「卸売業、小売業（飲食料品小売業）」となっている（付加価値額 2 億円以上）。

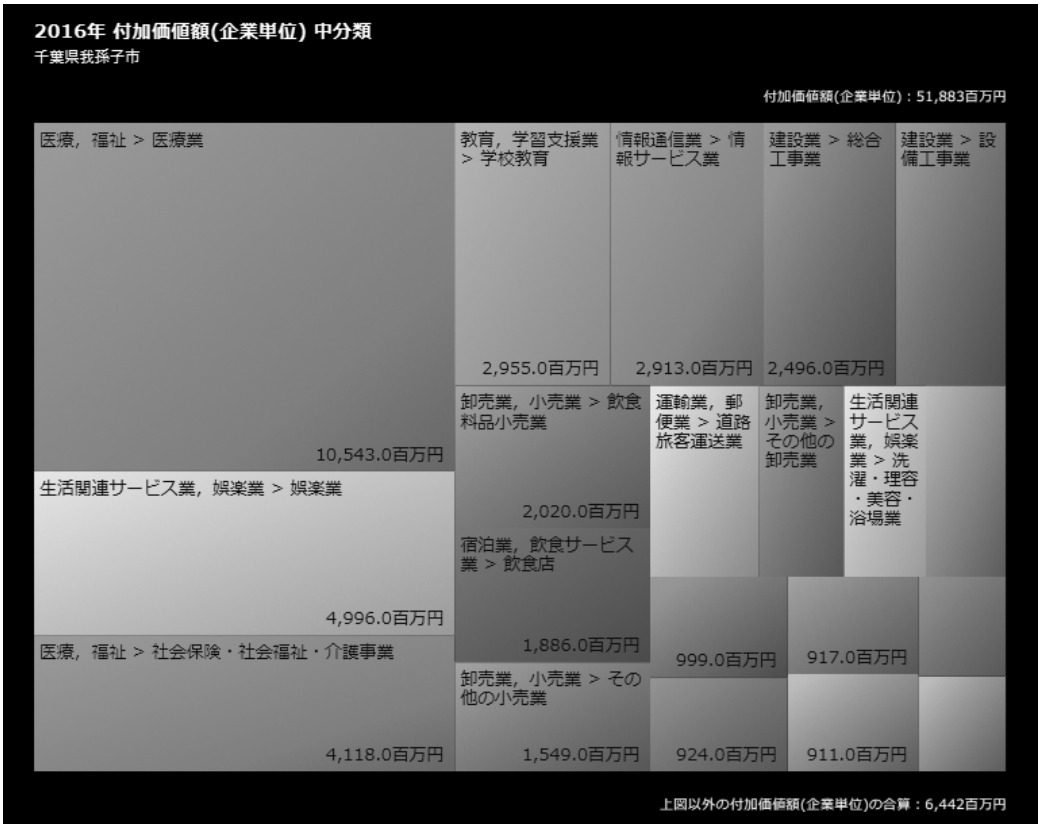
---

18 「千葉県市町村別大規模小売店舗名簿（令和 2 年 12 月末）」東葛飾地域振興事務所 p.12
https://www.pref.chiba.lg.jp/keishi/daiten/h28/documents/4_tokatsu.pdf

19 「千葉県市町村別大規模小売店舗名簿（令和 2 年 12 月末）」東葛飾地域振興事務所 p.9
https://www.pref.chiba.lg.jp/keishi/daiten/h28/documents/4_tokatsu.pdf

20 取手市都市計画課が進めている桑原周辺地区土地区画整理事業（桑原地区は我孫子市内から 5 キロ圏内）が進展しており、日本工業経済新聞（茨城版）2018 年 1 月 30 日付け配信記事（https://www.nikoukei.co.jp/news/detail/353809）によれば、「同地区の北側（約 32. 6 ha）に専門店が連続する商業施設を、南側（約 35ha）に多目的な大規模商業施設を整備する」ことが報道されている。店舗面積等は現時点では不明であるが、開業により我孫子市の卸売・小売業とそれが担ってきた民間消費額のあり様は、大きな変化に直面することが予想される。

図 16　我孫子市の付加価値額（企業単位）中分類：2016 年

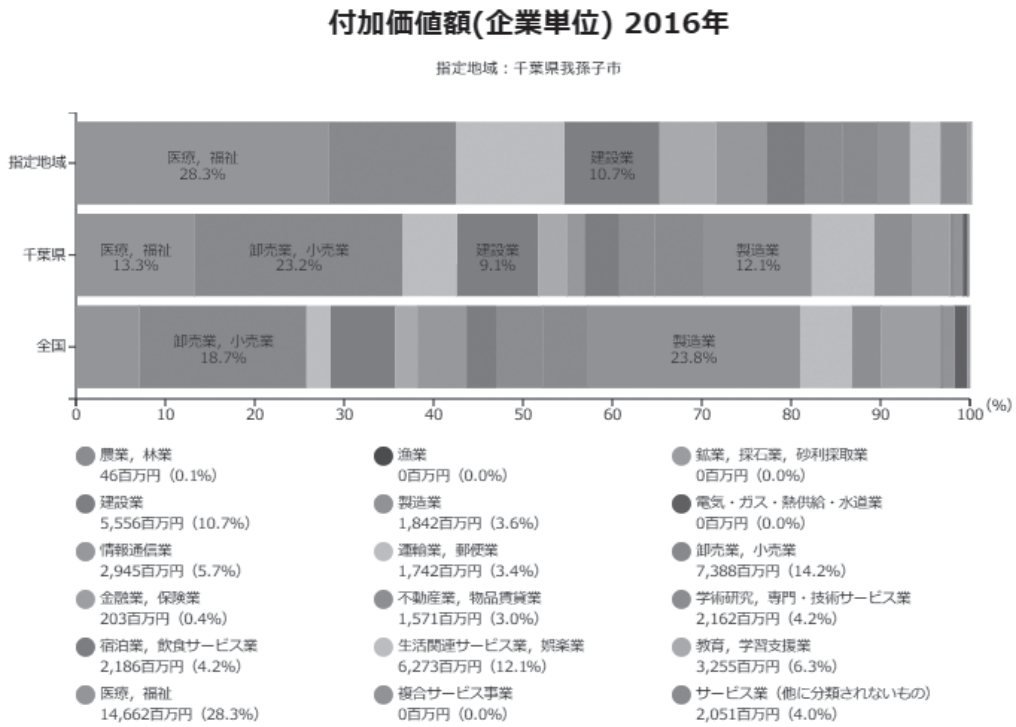


出典）ＲＥＳＡＳ「産業構造マップ　全産業」

図 17 により、付加価値額における主要産業の特化係数（全国平均との比較係数）を確認すると、我孫子市では「医療、福祉（医療業）」「生活関連サービス、娯楽業（娯楽業）」「教育、学習支援業（学校教育）」「情報通信産業（情報サービス業）」の産業構成比が、全国を上回っていることが確認できる。一方、製造業は、全国が 23.8％、千葉県平均 12.1％であるのに対して、我孫子市は 3.6％となっており、大きく下回っている。

これらの産業群が、付加価値額から見た我孫子市の主要産業（稼げる産業）といえよう。付加価値額の構造を分析するため、ＲＥＳＡＳにより「従業者と労働生産性から見る付加価値額」を確認すると、表 13 のとおりとなる。

図 17　我孫子市の付加価値額（企業単位）：2016 年



出典）ＲＥＳＡＳ「産業構造マップ（全産業）」

表 13　我孫子市「従業者と労働生産性から見る付加価値額」：2016 年

	産業	労働生産性（千円/人）	従業者割合（%）	付加価値額（百万円）		産業	労働生産性（千円/人）	従業者割合（%）	付加価値額（百万円）
●	医療，福祉	3,213.94	28.9	14,662	●	製造業	3,782.34	3.1	1,842
●	卸売業，小売業	3,049.11	15.4	7,388	●	運輸業，郵便業	3,099.64	3.6	1,742
●	生活関連サービス業，娯楽業	4,368.38	9.1	6,273	●	不動産業，物品賃貸業	4,028.21	2.5	1,571
●	建設業	4,865.15	7.2	5,556	●	複合サービス事業	0.00	0.0	0
●	教育，学習支援業	3,387.10	6.1	3,255	●	電気・ガス・熱供給・水道業	0.00	0.0	0
●	情報通信業	4,765.37	3.9	2,945	●	鉱業，採石業，砂利採取業	0.00	0.0	0
●	宿泊業，飲食サービス業	1,503.44	9.2	2,186	●	漁業	0.00	0.0	0
●	学術研究，専門・技術サービス業	3,437.20	4.0	2,162	●	その他	2,441.18	0.6	249
●	サービス業（他に分類されないもの）	2,012.76	6.5	2,051	●	秘匿・格付け不能等	0.00	0.0	0

出典）ＲＥＳＡＳ「産業構造マップ（全産業・全産業の構造）」

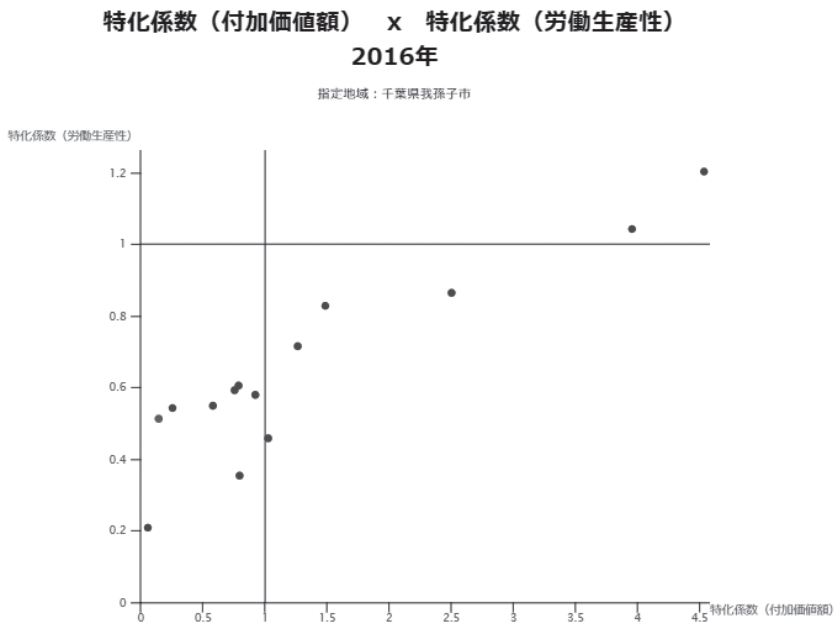
（9）「稼ぐ力分析」から見た我孫子市の特徴

ＲＥＳＡＳの産業構造マップにより我孫子市の「稼ぐ力分析」を行っていくことにする。「稼ぐ力分析」とは、産業特化係数に着目した分析である。これは、域内のある産業の比率を全国の同産業と比較した数値であり、1.0 を超えていれば、当該産業が全国に比べて特化している（全国平均より優位である）、つまり地域の核（コア）となる産業であることを示す。

我孫子市の状況について、図 18 により見ていくと、二つの特化係数（付加価値額と労働生産性）がともに 1.0 を超えている産業は全体で

２つあることがわかる。それは、「生活関連サービス業」（労働生産性 1.20、付加価値額 4.54）と「医療、福祉」（労働生産性 1.04、付加価値額 3.96）である。

図 18　我孫子市における産業別特化係数のクロス表：2016 年



出典）ＲＥＳＡＳ「産業構造マップ（全産業・稼ぐ力分析）」

また、付加価値額のみ 1.0 を超えるのは、「教育、学習支援業」（2.58）、「建設業」（1.49）、「宿泊業、飲食サービス業」（1.27）、「情報通信業」（1.03）である。

これら主要産業の課題を整理すると、図 19 のとおりとなる。図 19 によれば、医療業と飲食料品小売業においては、労働生産性に課題がある産業とされているが、当該産業の人材育成や、設備投資の促進施策を検討することが望ましいであろう。

図 19　我孫子市の主要産業の状況

2016年 千葉県我孫子市

⇧ 特化係数が1（全国平均）以上
⇩ 特化係数が1（全国平均）未満

産業	売上高（企業単位）実数（百万円）	付加価値額（企業単位）実数（百万円）（特化係数）	労働生産性（企業単位）実数（千円/人）（特化係数）	従業者数（企業単位）実数（人）（特化係数）
建設業	63,140	⇧ 4,996 (0.98)	⇧ 6,421 (1.19)	⇧ 804 (3.29)
医療業	21,200	⇧ 10,543 (3.42)	⇩ 3,869 (0.83)	⇧ 2,789 (2.36)
社会保険・社会福祉・介護事業	6,561	⇧ 4,118 (7.08)	⇧ 2,242 (2.03)	⇧ 1,864 (2.01)
飲食料品小売業	6,429	⇧ 2,020 (1.52)	⇩ 2,280 (0.83)	⇧ 997 (1.15)
学校教育	5,623	⇧ 2,955 (2.89)	⇧ 4,916 (1.01)	⇧ 619 (1.70)

（注）表示対象は、従業者数（企業単位）の特化係数1以上の若しくは上位5位産業
（注）付加価値額、労働生産性は企業単位のデータのため、本社が病院等事業以外の企業のデータが含まれない場合がある

出典）ＲＥＳＡＳの「データ分析支援機能」を利用し作成

（10）グローカルデザインと
その実現に向けた対策：まとめ

①我孫子市の地域産業がもつ「稼ぐ力」の向上

我孫子市の地域内産業の内訳は、第３次産業が最も多く 3,557 億円（82.3％）となっており、特に対人サービス産業（医療福祉、生活関連産業サービス）が地域経済を下支えしているなど、サービス経済化が進行している。一方で、第２次産業は 748 億円（17.3%）となっている。

地域経済は、a. 地域外を主な市場とする「域外市場産業（製造業、農業、観光、対事業所サービス業）」と、b. 地域内を主な市場とする「域内市場産業（日用品小売業、対個人サービス業）」に分けて考えることができる[21]。

我孫子市では、域外へ生産物を流出させ、域外から資金を流入させる域外市場産業が比較的小規模である。このため、域外から資金を稼いでくる産業（稼げる産業）の集積を促進し、その競争力を強化することが、雇用促進と地域の所得向上を図る上で重要な課題となる。

我孫子では、近年、市内で操業してきた事業者が、事業拡張のために市内に移転先を求めるものの、既存の工業系地域は既に利用されており、新しい工場や事業所等が立地する余地がないことから、やむを得ず市外に移転するケースが見られていた。また、新たに市内への進出を希望する企業のニーズに応えられない現状もみられている。

このような状況を踏まえ、我孫子市は、産業拠点となり得る適地創出に向けた検討を行っていくために、平成 29 年度に産業拠点検討調査を実施し、その結果を踏まえ、平成 30 年度には「我孫子市産業拠点土地利用について」を策定し、工業系土地利用を最優先に進めていくエリアとして同市の柴崎地区を新たに位置づけている。こうした方針は「我孫子市企業立地方針（改訂版）」として令和２年３月に公表されている[22]。

これまで多くの地域で公共投資を活用した企業誘致が進められてきた。しかし、誘致が成功しても、地域における所得循環構造が構築されていないと、住民に所得が還元されない場合もしばしばみられるところである。

新たな産業拠点においては「地域の稼ぐ力の向上」と「所得循環構造の構造」を念頭に置いた企業誘致が求められるであろう。とりわけ、地域の得意な産業（稼げる産業）を中心においた地域内取引の活発化が求められるであろう。

②我孫子市の地域産業を担う
「生産年齢人口の維持・確保」

「労働力状態」とは、15 歳以上の人について、調査年の調査週間に「仕事をしたかどうかの別」により区分するものであるが、我孫子市の労働力状態は表 14 のとおりである。

21　岡田知弘・川瀬光義・鈴木誠・富樫紘一（2016）『国際化時代の地域経済学（第４版）』有斐閣アルマ pp.16-20
22　我孫子市ホームページ「企業立地方針」
https://www.city.abiko.chiba.jp/jigyousha/kigyoricchi/houshin.html、

表 14　労働力状態別 15 歳以上人口（我孫子市）

２－１０　労働力状態別１５歳以上人口

令和２年１０月１日現在

区分		総数	労働力人口							非労働力人口
			総数	就業者						
				総数	主に仕事	家事のほか仕事	通学のかたわら仕事	休業者	完全失業者	
平成27年	総数	115,024	61,197	58,794	47,048	9,157	1,369	1220	2,403	46,311
	男	55,984	35,322	33,711	31,607	757	724	623	1,611	16,700
	女	59,040	25,875	25,083	15,441	8,400	645	597	792	29,611
令和２年	**総数**	**114,336**	**56,426**	**54,145**	**43,348**	**7,795**	**1,514**	**1,488**	**2,281**	**41,853**
	男	**55,370**	**31,482**	**30,023**	**27,680**	**805**	**795**	**743**	**1,459**	**15,565**
	女	**58,966**	**24,944**	**24,122**	**15,668**	**6,990**	**719**	**745**	**822**	**26,288**

※ 総数には労働力状態「不詳」を含む。　　資料：行政管理課（国勢調査）

出典）「我孫子市2021統計」2-10,（p.39）

令和２年の国勢調査を例に見ていくと、労働力人口（就業者と完全失業者を合わせた人数）の総数は 56,426 人（平成 27 年比△ 4,771 人、92.2％）である。この内訳は、就業者は 54,145 人（平成 27 年比△ 4,649 人、92.0％）、完全失業者は 2,403 人（平成 27 年比△ 122 人、95.0％）となっている。労働力率[23] は 53.2% であるが、女性就業者の割合（就業率）は 42.4%であり、高齢者割合（就業率）は 12.4% である[24]。

我孫子市における生産年齢人口の維持・確保をしていく上で、これら労働力率、就業率を高めていくことが課題となる。また、非労働力人口[25] の就業に向けた支援も必要となろう。

（参考文献）

佐藤寛・林健一（2022）「グローカル・プロファイリング報告書：我孫子市」中央学院大学社会システム研究所紀要 22 巻

23 「労働力率」とは，15 歳以上人口（労働力状態「不詳」を除く。）に占める労働力人口の割合のことであるが、ここでは資料の都合により、「不詳」を含んだ値である。

24 女性就業者の割合は、表４のうち、15 歳以上人口に占める女性の就業者総数の割合を算出した。また高齢者（65 歳以上）の割合は、15 歳以上人口に占める女性の就業者総数の割合を算出した。

25 「非労働力人口」とは、15 歳以上人口のうち、就業しておらず、かつ就業の意思のない者（いわゆる専業主婦などの家事、学生（専門学校・専修学校も含む）、定年退職をした高齢者など）の合計をいう。いわゆるニートなどもここに含まれる。

Glocal Design Proposal : Abiko City

Hiroshi Sato, Professor
Department of Modern Liberal Arts,
Chuo Gakuin University

Kenichi Hayashi, Professor
Department of Modern Liberal Arts,
Chuo Gakuin University

Abstract

This paper proposes the development of a sustainable regional economy by maximizing the potential of Abiko City's unique regional resources such as history, culture, and natural environment.

Abiko City, Chiba Prefecture, is about 20 meters above sea level, the longest north-south extension is about 4 kilometers, the east-west extension is about 14 kilometers, and the area is about 43.15 square kilometers. Geographically, In April 1955, Abiko Town, Fusa Town, and Kohoku Village merged to form Abiko Town, and in July 1970, the city was established. Blessed with abundant water and greenery, it is about 40 kilometers from the city center and a short distance of 35 minutes on the Joban Line.

The purpose of this paper is to "draw a future image of a vibrant economic society in Abiko City that makes the most of its local yet global connections."

In this paper, we will first confirm the demographics of Abiko City and the factors behind the changes. Next, we will use the Population Census to clarify the connections between Abiko City and other regions (including foreign countries). In addition, using the Regional Economic Analysis System (RESAS), we will analyze the connections in the regional economy, such as the overall structure of income circulation in the regional economy.

Based on these analyses, we will propose policies necessary to realize a vibrant industrial economy in Abiko City.